

令和3年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業



令和3年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業〔主催＝（公財）日本武道館・（公財）合気会・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕は令和4年2月12日、日本武道館大会議室において実施された。本研究事業は、中学校武道必修化の充実に向け、指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる合気道授業等の研究をするものである。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、日本武道館が作成したガイドラインに基づき、来館時の検温、換気や消毒の徹底、アクリル板を設置し研究者同士の距離を確保するなど、十分に配慮しながら協議が行われた。

開講式では、はじめに栗林孝典合気会渉外部長、次に吉川英夫日本武道館理事・事務局長が主催者挨拶を述べた。

開講式終了後、合気会の飯原宏亨職員から、本年度の中学校合気道採用校一覧をもとに、全国の実施状況が説明された。全体では68校で実施されており、公立校52校のうち、15校が合気道に

ゆかりのある土地での採用、私立校16校のうち、11校が女子校での採用であると報告された。

栗林渉外部長からは、「外部指導者がその学校で指導し続けるのではなく、最終的には保健体育科の教員が一人で授業ができるようになることが重要」との意見があった。

報告に続いて、合気会刊行『中学校体育実技指導資料合気道指導の手引』を、新学習指導要領の評価基準項目に則した内容にするため、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』をもとに協議を行った。

協議は、教育現場で合気道の指導経験がある東京都立王子総合高等学校教諭の佐藤貴研究者、大妻中学高等学校教諭の田坂真央研究者からの意見を取り入れつつ、より分かりやすい内容になるよう進められた。

閉講式では、国際武道大学体育学部武道学科教授武道学科長の立木幸敏研究者が講評を述べた後、合気会指導部師範の鈴木俊雄研究者、鈴木達也日本武道館振興部長が主催者挨拶を述べ、全日程が終了した。